

★ 水稻のトビイロウンカの発生に注意して下さい！！ ★

8月中旬に府内各地の水田でトビイロウンカの発生を確認しました。また、8月第1半旬に京田辺市の、第2半旬には亀岡市及び京丹後市の予察灯（60W）でトビイロウンカの誘殺を確認しています。昨年は、9月初めから府内の広い範囲で本虫の発生及び坪枯れ被害を確認しました。今後の発生状況に注意してください。

1. トビイロウンカの発生状況等

- (1) 8月中旬に、府内各地の水田で成幼虫の発生を確認している（+）。
- (2) 予察灯（60W）への誘殺は、8月4日及び5日に京田辺市、5日に京丹後市、6日には亀岡市でも確認している（+）。
- (3) 向こう1か月の平均気温は高いと予想されている（+）。

2. トビイロウンカの生態

- (1) 成虫には長翅型（羽の長い型、写真1）と短翅型（羽の短い型、写真2）があり、ほ場に飛来する成虫はすべて長翅型で、その後の世代で増殖能力の高い短翅型が出現します。
- (2) トビイロウンカは通常1ヶ月弱で世代を繰り返すため、急激に増殖し、坪枯れを生じさせることがあります（写真3）。特に、収穫期が遅い中晩生品種（ヒノヒカリ、京の輝き、祝、新羽二重糯）では、被害が拡大することがあるので発生状況に注意してください。
- (3) トビイロウンカは局所的に発生する傾向があるため、ほ場全体をよく観察し、発生に十分注意してください。特に株元を注意して観察してください。
- (4) 低湿田、通風不良田、多肥田等では発生しやすいので注意が必要です。

3. 防除上の注意事項

- (1) 防除の目安は株当たり成幼虫が5頭以上です。
- (2) 農薬の使用にあたっては使用基準を遵守してください。特に収穫期が近い品種では、収穫前使用日数や使用回数に注意してください。
- (3) 粒剤は種類により施用時期が決まっているので、適期に施用してください。また、粉剤や液剤で防除する場合は、薬剤が株元に十分届くように散布してください。なお、防除の際には、周辺ほ場に農薬が飛散しないよう十分に注意しましょう。
- (4) 収穫期が迫り、薬剤防除が出来ないほ場は、収穫適期の範囲内で早めに収穫してください。
- (5) 必要以上に早い落水は、坪枯れの発生を助長するので、適期落水に努めてください。
- (6) 出穂前後に害虫防除を実施したほ場では被害（坪枯れ）が生じる可能性は低いと考えられますが、ほ場によっては密度が高くなることもあるので十分注意してください。



写真1 トビイロウンカ長翅型成虫



写真2 トビイロウンカ短翅型成虫と幼虫



写真3 トビイロウンカによる坪枯れ